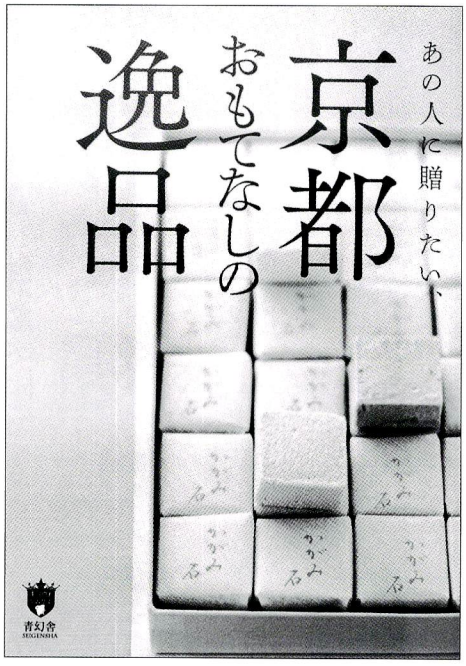
# 京都おもてなしの逸品
# まるごと京野菜

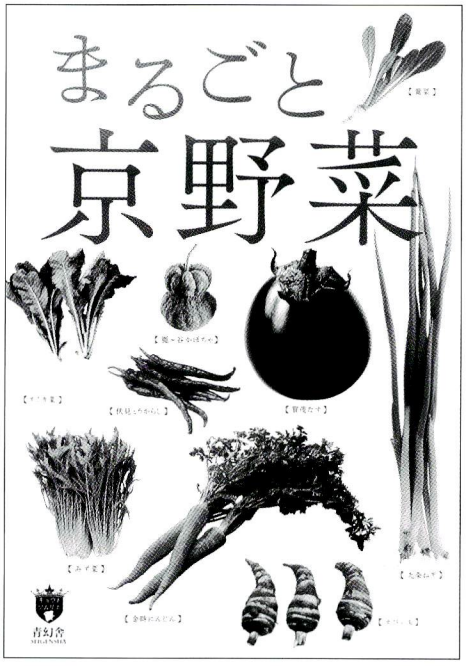
## 待望の京名物本、シリーズ新創刊。
## 逸品や野菜をモチーフに、狙うは京都復活！

Catch! the entertainment

イベント・ライブ・演劇に映画、CDリリースから書評に至るまで、骨太entertainmentを丸飲み！

BOOK 発売中




当地の出版社「青幻舎」が満を持して「京都ソムリエ」シリーズを創刊。「京都の奥深さや底力」「ほんものの魅力」を書籍にまとめ発刊していく。その第一弾がこの「京都おもてなしの逸品」と「まるごと京野菜」の2冊だ。

モチーフは題号のとおりだが、本著のテーマは、こんな時代だからこそ「京都をもっと元気に」、そして他府県の方にも「京都を知ってもらいたい」というもの。不況だ新型インフルエンザだと沈滞気味な空気を一掃したい、という気持ちがあるわけである。

逸品や野菜でどうやって？というと、前者はお歳暮・お中元から結婚祝い、長寿祝いまで贈り物を18カテゴリーに分け、それぞれにぴったりな京物を紹介している。「贈ること」をイベントとしてしまえばいい。最も上手なプレゼントは「相手と自分の中間にあるもの」だと言うけれど、「こんな京物知らんかったわぁ」という魅力的な逸品の中から、「アレを贈るかそれともコレか」と悩むのも楽しいものだ。

後者は、ブランド認定された京野菜、伝統野菜が網羅され、その由来や特徴、おいしい食べ方やレシピを集めている。「京野菜検定」受験のサブテキストという実用も可能だが、ここは「自分の舌に胃に、豪華なプレゼント」と思えばいい。

ちなみに今秋には、京都の出版社ならではの奥深い飲食店ガイドもシリーズ第二弾として創刊される予定。その頃には「不況？ 何それ？」ってなってるといい。

（中井　忍）

■「京都おもてなしの逸品」「まるごと京野菜」
■ 青幻舎 ISBN978-4-86152-191-1
ISBN978-4-86152-192-8,
■ 定価：いずれも本体1200円＋税
■ 問い合わせ　青幻舎（☎075・252・6766）
■ http://www.seigensha.com

# 街場の演算

肩の力を抜いて、自由に語ろう…、京の街と付き合うということを。

保伊戸宵（ほいとよい）

【第21回】

アテと1杯の酒が楽しい。
それは街場の正しいひとり遊びだと思う。
そのためのカードをいくつもためておく。
そのカードを切った後に感じる、
京の夜風がどれだけ気持ちいいか。

「呑んだり、喰ったり」していることの面白さは誰かと何かを楽しんでいることを倍ほどにもしてくれる。それが街的なセンスであったり、街場のコミュニケーションであったり…というものだ。

普段はそこに居合わす誰かに何が喰いたいか、何を呑みたいかを訪ね、職業柄のホスピタリティを発揮するわけだが、街とのコミュニケーションにおいては、時にひとり酒という抜き差しならない場面がやってくる。

そんな場面では、他人がきいたら「アホ」としか思えないかもしれないが、「今、自分はどこに居るのか？」「体調は？」「何が食べたく、何が呑みたいのか？」「行って合点が行く店、欲求を満たす飯はあるか？」「行った事はないが、行くべきだと思っていた店はないか？」、空を見上げたり空気の匂いや温度を感じ直したりして「今、食べるべきものは何か？」なんてことを頭のCPUを高速回転させて考える。

ついつい、京都の夏場は冷酒を軽くひっかけて…なんて頭になってしまうことが多いものだ。それと同時に「鮎の安くてうまい店はないだろうか？」とか、「いや、鮎もいいけれど、ぼってとしたアマゴもいいな」などと頭は考えだす。ゆっくりと身をほぐしながらやる冷酒は本当にうまい。ま、そんな川魚と冷酒は、和食の店にしけこんでいるわけだが、そういったときは必ず野菜を頼む事を忘れない。丸ままのトマトだっていい。夏野菜は体温の火照りを落ち着かせる効果が

■「電信柱エレミの恋」　■ 監督・脚本 ／中田秀人
■ 7月16日（Thu）・17日（Fri）　14:00〜 ／ 16:00〜 ／ 19:00〜
■ 京都市国際交流会館 イベントホール　■ 一般当日1000円
■ 7月4日shin-biでサントラを担当した tico moonの LIVEあり
■ 7月15日(水)・16日(木)・17日(金) アートフォーラムJARFO（三条東大路東）にて、撮影のために制作された造形物を展示

## 電信柱エレミの恋

MOVIE
7.16〜
(Thu)

### CG全盛でも、パペットアニメの魂死なず。伝説のソバットシアター、8年目の作品完成！

アニメーションというと、今やコンピュータで描かれた動画が全盛。だが、それ以前はセルアニメ、もっと以前は人形を動かしてひとコマひとコマ撮影していた。たとえば大人気のチェブラーシカはそうした職人芸でつくられたパペットアニメーションだ。

ソバットシアターの『電信柱エレミの恋』はセット、キャストが全て手づくりのパペットアニメーションで、製作期間に8年を費やした。電信柱のエレミが人間の男性に恋をして、決してやってはいけないこと——電線を利用して電話をかけてしまう…。

昭和のレトロな風景を背景につづられる電信柱の悲恋。素朴なストーリーに引き込まれてしまうのは気の遠くなるような細かな作業が、登場する電線や人形に魔法のように命を吹き込んでいるからだ。見る人を非日常の時間感覚にいざなってくれるアニメーションの時間がここにある。秋の東京での公開に先がけて、先行上映。

（沢田眉香子）

## SUN PAULO [ONE PEOPLE] ALBUM RELEASE TOUR

EVENT
7.3
(Fri)

### 皆既日食に魅せられたバンド。SUN PAULOとトリップする。

シアター・ブルックの佐藤タイジと森俊之によるダンス・ミュージック・ユニットSUN PAULOの1stアルバムは、佐藤タイジが'01年にザンビアで初体験した皆既日食パーティを元に制作された。タイトルはずばり「After the eclipse」（eclipse＝皆既日食）。というわけだから、今年7／22にトカラ列島（屋久島から奄美大島の間にある）を中心に観測できる今世紀最長の皆既日食を前に、SUN PAULOの動きも活発になっているのはもっともなことだろう。

4月のリミックス・アルバムに続き、6月にはオリジナル・アルバム「ONE PEOPLE」を発表。そのリリース・パーティがLAB.TRIBEで行われる。

大型ロック・フェスから土着的なレイヴまで、オーディエンスをグングンと昂揚させていくSUN PAULOと、大阪から狂喜のパーティ・カルチャーを体現するALTZをDJに迎えて。熱狂と陶酔の一夜となるのだ。

（中谷琢弥）

■「SUN PAULO [ONE PEOPLE] ALBUM RELEASE TOUR」
■ 7.3（Fri）　■ OPEN・START　22:00〜
■ 前売り2500円（1ドリンク）　当日3000円（1ドリンク）
■ LAB.TRIBE
京都市中京区河原町二条交差点南西角B1F
☎075・254・1228
http://www.labtribe.net

ある。瓜類は特にそうだ。どぼ漬けもうまい（ご存知のように僕は吉符入りから夏越の祓いまではキュウリを食べないのだが…）。なんか勢いがついてきた？

夏場に日本酒と言えば貝もまた合う。アワビとは言わないが、蛤やサザエなんかは気軽に食べられて酒も進むというもんだ。最近は、割烹だけでなく、魚介が売りの居酒屋も増えてきた。また、いい感じの立ち飲み屋なんかでは、きちんと季節の素材でもっていいアテを出してくれる店も多い。せちがらい世の中だからこそ、そういった店の切り札をきちんと懐にしのばせておきたいものだ。

冷酒ときたら、次はビールというものだが、僕はビール党ではないのであれこれと頭が回らない。が、夏場はなぜか中華とビールというのを頭に浮かべてしまう。「泉門天」の餃子で、というのもいい。「鳳舞」でからし鶏と、いや千中の「竜鳳」で焼豚もいい。「北京亭」で芝エビのケチャップ煮もいいなぁ。と、ここまで書いて気がついたんだが、酸っぱくてピリっとするものとビールというのが夏はあっているんじゃないか？ 京都の夏は独特の暑さがあるからな〜。

そんなこんなで最後は、夏でも赤ワインな僕が最近ひとり酒ではまっているのが、バル&バール。京都のそこここにできていることは嬉しい限りだ。夏メニューという訳ではないが、今出川川端西入ルの「フリーゴ」の、エビとホタテの香草バター煮なんかは、赤ワインの友として最高にチビチビやれるアテである。もちろん、煮込み系のアテだけではなく、バル&バールには夏らしい冷たくて美味しく、かつスピーディに供されるメニューもいっぱいある。酒やビールから目先を変えて、ちょいと気軽にグラスで1杯というのもいいものである。

まぁ、最高のアテで何を呑むにせよ、ご機嫌になるのはもちろんなことだが、脚元にくる前に夜風に当たりながら帰るのがよろしいんじゃないだろうか。歩きながら感じる京都の夜の闇の深さもまた、とても風情がある。ちょっと酔っているからこそ見える景色というのも、京都にはあるのだ。

保伊戸 宵（ほいと・よい）／コピーライター&編集者。滋賀県に出かける事、頻繁（まだ続いています）。7月は腰を据えて祇園祭に命かけ、であることを祈っているのだが、夏の京都の昼間にロケバス移動の撮影が…あぁ、南無三。